

ふれあいリビング

足腰が弱くて、つい自分の家に閉じこもりがちになってしまう高齢者が増えています。入居者の高齢化が急速に進む中、このような支援を要する高齢者の安否確認や、高齢者がいつまでも元気に暮らしていくにはどのようにするかなど、さまざまな問題が現れてきています。

そんな中、家から近く、気さくに話ができる場所を作りたい。こんな思いをかなえるために作られたのが「ふれあいリビング」です。下新庄さくら園を皮切りに始まったこの試みは、今では15か所の府営住宅で実施され、それぞれ工夫が凝らされ、周辺の地域の方も訪れるなど活発に活動しています。

今回は、平成20年に既存集会所の一部を改造し、「ふれあいリビング」を新設した住宅の1つ、焼野住宅を紹介します。



焼野住宅 ふれあいリビング「ひまわり」



「2～3人でさそい合って来る方が多いです。顔なじみのメンバーが来ていない日は声かけをしています」との言葉に象徴されるように、団地内のふれあいの場となった「ふれあいリビング。」住宅の近くにある鶴見緑地を散歩中の方も立ち寄り、地域のふれあいの場ともなりつつあります。

「今まで家に閉じこもっていた住民が、ひまわりに来るようになりました。規則正しい生活でストレスも減り、血圧が安定した住民も多いようです。」と話すのは運営委員長の澤田辯吉さん。「庭先で立ち話をするように、住民が気軽に話せる場所があれば」との思いで始めた「ひまわり」は、毎日50人ほどが訪れる盛況ぶりです。

「これからは子ども会とも交流を深め、いろんな世代が安心できる場所にしていきたい。」と抱負を語ります。世代を超えてふれあう場を設けたい。こんな思いが笑顔となって少しずつ広がっているようです。



注) この記事は、2008年冬号のふれあいだよりに掲載されたものです。内容はすべて掲載当時のものです。